

☆☆図書室だより☆☆ ☆第47号☆

☆☆- 図書委員会よりお知らせ - ☆

異常気象や争い多かった今年も、イエス様のお誕生日を心から待ち望みます
おすすめしたい本と併せて新しく入った本の紹介をさせていただきます。



ご紹介



阿佐ヶ谷教会 主任牧師 古屋治雄

「光の祝祭 ヨーロッパのクリスマス」

小塩節 著 小林恵 写真 日本キリスト教団出版局 [茶 196.3 O]

年末の日本の歳時記の中にクリスマスをお祝いすることが定着し、益々ある「勢い」を持っていることに教会に連なる私たちとしては圧倒されそうになっています。そのような中で今年もクリスマスのもともとの出来事とその意味を広くまた深く知って欲しいと願い、この時期教会に来たことのない人々を聖夜讃美礼拝や降誕祭礼拝に招こうとしています。

採り上げた本書は、日本ではなくヨーロッパのクリスマスの伝統を美しい写真と共に小塩節先生が紹介している書物です。「二千年来、ヨーロッパの人びとはどのようにクリスマスを祝ってきたのか。いまどうしているのか。そもそもクリスマスとは何なのか。…四十年近い実地の生活経験をとおしてできるだけそのままお伝えしたいと願いました」とご本人語っています。ヨーロッパも変化しつつありますが、その底流に確かに流れているクリスマスから発する信仰に本書をとおしてあらためて私たちもふれることができます。

《ご寄贈書》	書名	著者名・出版社・発行年など
イザヤ書を読もう 上	ここに私がおります	大島力 著 日本キリスト教団出版局 2024.9.25 [黄 193.41 O]
われら主の僕	リベラルアーツの森で生まれ	ICU伝道献身者の会 編 2024.2.29 [赤 192.1 I]
ICU出身の、お馴染みの諸先生方の著作集です。		
漫画 幸せなら手をたたこう 英語版 誕生秘話		西岡由香 著 木村利人 いのちのこことば社 2024.4.20 [黒 767.1 Ni]
前回紹介済の『戦争・平和・いのちを考える』(木村利人著)の英語版漫画です。		
LGBTと聖書の福音	それは罪か選択の自由か	アンドリュー・マーリン 著 岡谷和作 訳 いのちのこことば社 2022.6.20 [茶 197.6 Ma]
旧約聖書物語		犬養道子 著 新潮社 1975.9.15 [橙 193.1 I]
余の尊敬する人物		矢内原忠雄 著 岩波新書 R-17 1940.5.30 [黒 281.04 Ya 1]
続 余の尊敬する人物		岩波新書 F-82 1949.11.5 [黒 281.04 Ya 2]
New Testament 新約聖書	聖書協会共同訳	日本聖書協会 2024 [橙 193.5 Ni]
新来会者へプレゼントしている、「レインボウ『聖書』」の新しい版です。		

《購入書》	書名	著者名・出版社・発行年など
LGBTQ	聖書はそう言っているのか?	藤本満 著 イクススe ブックス 2024.7.19 [茶 197.6 Fu]



「光の降誕祭 20世紀クリスマス名説教集」

R.ランダウ 編 加藤常昭 訳 教文館 [緑 194 La]



本書の説教は、20世紀の世界と教会の現実を見据え、闇に差し込む「光」を示しています。原題『神の子は来られた』をテーマに20編の個性的な説教が綴られています。ゴルヴァイツァーは「絶望においてなお示される光」を、バルトは「神の声を聴いて信じる信仰」を、トゥルンアイゼンは「神みずから踏み出す力をもって人間の神となろうとされること」を語ります。他にも時代を代表する名説教が盛り込まれ、読者に深い味わいと熟慮の時を与えてくれます。

説教はいつ、どこで語られたか、時代背景が大切であると訳者は指摘します。「戦いの暗き夜も、平和の静かな朝も、み言葉に聞くものここに集えり」の阿佐ヶ谷教会の歌が示すように、この世の現実と共に生きた説教者をとおして、私たちが神の声を聴くことができます。阿佐ヶ谷教会はこの冬、百回目のクリスマス説教が与えられようとしています。神様からの声として真剣に受け止めたいと思わせる1冊です。

(ときわ木会 Y.M)



「3.11後を生きる「なぜ」と問わない」

山浦玄嗣 著 日本キリスト教団出版局 [黒 369.31 Ya]

『生物はなぜ死ぬのか』（小林武彦、講談社現代新書）に生物には2つの死に方がある。衰弱死、そうして食べられて死ぬことだ。現代では人は食料になるのは殆ど無い。しかし事故死、事件死はある意味食べられるのと同様だ。酷い事故、事件は後を絶たない。戦争、自然災害もしょっちゅうだ。77歳の私も様々な死を見て来た。日本でも福井地震、阪神淡路地震、何回もの列車事故、航空機事故、船舶遭難など枚挙に限り無い。

そして近くは2011年の東日本大震災は、日本の有史以来の大災害でも特筆される自然災害だった。ジャーナリズムや体験者手記も多い。なかでカトリック信徒、医師の山浦玄嗣さんの『「なぜ」と問わない』はおなじ神を信じるものとしてキリスト教信仰の本質を指摘された。神は自らの意志でこの世を支配している。現在祈祷会では「ヨブ記」講解がされている。ヨブ同様に「なぜ」と神に問いたくなることが多い。それは誤りである。

(信友会 図書委員 m)



「LGBTQ 聖書はそう言っているのか？」

藤本満 著 イクススeブックス [茶 197.6 Fu]

LGBTQの割合は約10%と言われており、「マイノリティ」といっても少数とは言えない、とても普遍的な性のありかたです。しかし9割に属する方々にとっては気付きづらく、性は男女ふたつだけと思いがちです。その思い込みから聖書を読む場合、どうしてもLGBTQを遠ざけようとする感情が生ずるのではと思います。

1章では、オバマ大統領下の同性婚成立までの歴史が描かれていますが、本書はどちらかと云えば、性的マイノリティの歴史的経緯よりも、聖書を広範囲に紐解く事に情熱が注がれています。聖書の各章ごとに、とても詳細かつ丁寧に釈義し直しています。思い込みではなく、真っ直ぐ聖書と向き合う姿勢は目から鱗です。

想えば聖夜は、虐げられる方々に光が照らされる晩でした。良い牧者の喩えは、ユダヤ社会の思い込みをひっくり返しました。神に愛されないものは誰もいないのです。あたりまえのように読んでいた聖書の福音が、あらためて奥深く響く1冊です。

(地の塩会 図書委員 m.i.)